

# 「装いの道具展」

## 1. 概要

人間は、飾るため、身分や出自の表出、呪術などの目的で様々な「装いの道具」を生み出してきた。中でも金属や石などで作られた「装身具」は重要な考古遺物のひとつである。埋蔵文化財センターが保管する縄文時代から中世までの装身具の代表的なものを展示し、“装身具”の移り変わりをわかりやすく紹介する。

## 2. 展示資料一覧

遺跡名	種別	点数			
下古館遺跡（下野市）	烏帽子	9	荻ノ平遺跡	土製腕輪	2
寺野東遺跡（小山市）	土製耳飾り	6	森後遺跡（さくら市）	勾玉	3
	貝輪状土製品	2		管玉	13
	土製垂飾品	5	吾妻古墳（壬生町・栃木市）	金属製品 （冠破片）	2
清六皿遺跡（野木町）	碧玉製管玉	1	菅田古墳群（足利市）	耳環	29
西物井遺跡（真岡市）	子持勾玉	1		勾玉	13
八剣遺跡（壬生町）	硬玉製大珠	1		ガラス小玉	112
	块状耳飾り	1		切子玉	3
	石製垂飾	4		琥珀製棗玉	1
	土製垂飾	2		ガラス丸玉	19
権現山遺跡・百目鬼遺跡 （宇都宮市）	管玉	9		管玉	1
			合計	239	

※写真はふるさと栃木の考古学2（縄文時代）、6中世、第257集『権現山遺跡・百目鬼遺跡』第257集から転載

## 3. パネル一覧

	パネル名	内容
1	はじめに	着飾るため、護符として、身分を示すため、同族意識を表すなど、いろいろな理由で装身具が作られてきたが、栃木県内の遺跡から出土した、各時代の装身具を展示し、その移り変わりを見てもらう。
2	旧石器時代	日本国内外の旧石器時代末～縄文時代初めの、初現期の装身具を解説する。
3	縄文時代	ヒスイ製の大珠、耳飾り、髪飾り、腕輪を紹介し、これらが、地位や出自を表していたことを解説する。
4	那弥生時代	縄文時代以来の装身具に加えて、ガラス製・金属製・巻貝製腕輪などが登場することを解説する。
5	古墳時代	前期は、首長の神性を表した装身具が、中～後期には権力を表す「金ピカ」なものに変化することを解説する。
6	古代～	奈良時代以降は、日本では耳飾りと首飾りは衰退すること、替わって、服飾が重視・発達することを解説する。



展示風景